

令和3年度「学術変革領域研究（B）」新規採択研究領域
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	21B101	領域略称名	情動情報学
研究領域名	情動情報解読による人文系学問の再構築		
領域代表者名 (所属等)	近添 淳一（生理学研究所・脳機能計測・支援センター・准教授）		

（応募領域の研究概要）

人文系学問は、人間の行動やその記録から内的な状態・過程のモデルを構築する。情動が人間の行動に及ぼす影響は人文系学問の重要な主題の一つだが、個体の主観的情動を直接計測することができないために、情動を説明変数に含めたモデルの構築は容易ではない。近年の機械学習を用いた機能的MRIデータ解析の技術的進歩により、脳活動からの情動情報の解読が可能となりつつある。本研究領域においては、機能的MRIを組み合わせた心理学・言語学・経済学・美学研究を通じて、これまで不可視のものであった情動情報を脳活動から解読し、変数として取り込む形で、認知過程・言語表象・経済活動・芸術活動のモデルを構築する。本領域の研究活動を端緒として、融合領域である「情動情報学」の創成を目指す。

（審査結果の所見）

本研究領域は、脳内情報処理機構を脳機能測定機器（機能的MRI）によって解析して変数として取り込み、認知過程、言語表象、経済活動、芸術活動を説明しようとする革新的な試みであり、神経科学分野から人文系学問（美学、言語学、経済学）の課題にブレークスルーをもたらそうとするものである。既存の学問分野の枠に収まらない、分野を超えた「情動情報学」の創成を目指すことにより人文系学問の再構築を提唱する本研究領域は、学術変革領域研究（B）としてふさわしい研究である。

これまで扱うことの難しかった人間の情動を対象とし、その基盤にある脳活動を生理学研究所の機能的MRIを用いて解明しようとする本研究領域の試みは、研究環境、研究手法、及びこれまでの研究活動から、実行可能性も高いと判断される。脳神経科学、及び、美学、言語学、経済学以外の人文系分野への波及効果も見込まれ、人文系分野全体に対する貢献も期待される。本研究領域の活動によって得られる成果・知見に期待するものである。